

令和7年度 一般選抜公立大学中期日程 人間健康科学部スポーツ健康科学科 小論文  
出題の意図と解答の傾向

第1問

本学のアドミッションポリシーに基づき、受験生の知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価することを目的とした。特に、本学科において学びの軸となる「スポーツ」と密接に関わる諸課題に対し、より良い解決策を思考し、判断し、表現できる能力を測ることを意図した。

設問1

【出題の意図】

設問1では、国民スポーツ大会の廃止の議論がなされている背景について、指定された文字数にて正しく要約する能力を問う設問であった。ここではただ単に国民スポーツ大会が抱える課題を抽出するだけでなく、国民体育大会の開催にあたっての理念ならびに果たしてきた役割等も含めて要約することができるかを問う設問であった。

【解答の傾向】

設問1では、国民スポーツ大会の廃止の議論がなされる背景について正しく要約することができるかを問う設問であったが、多くの受験生はこの問いに対し、開催にあたっての理念や果たしてきた役割とともにまとめることができていた。一方で、一部の解答では、国民スポーツ大会が抱える課題のみを挙げるにとどまるものも散見された。

設問2

【出題の意図】

設問2では、国民スポーツ大会のあり方について自身の立場としての賛否を表明するとともに、国民スポーツ大会の本義を見据えたこれからのあり方について、自身の考えを論じることを求めた設問である。この設問では賛否に対する自身の考えに対して明確な根拠とともに述べられているかということに加え、本義を見据えたこれからのあり方について、創造的な発想に基づいた提案とその根拠が十分に示されているかを問う設問であった。

【解答の傾向】

設問2は、国民スポーツ大会のあり方について自身の考えを述べるとともに、本義を見据えたこれからのあり方について提案することを求めた設問である。国民スポーツ大会のあり方に対する賛否については、根拠とともに解答している受験生が多く見られたが、本義を見据えたこれからのあり方については、文中にある「全国複数地域による同時開催」という筆者の提案をそのまま引用する解答が非常に多く、受験生による創造的なアイデアによる解答がほとんど見られなかった。

## 第2問

本学のアドミッションポリシーに基づき、受験生の知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価することを目的とした。特に、本学の教育理念にある「ウェルビーイング」の視点を重視し、健康に関する課題を適切に分析し、改善策を考える能力を測ることを意図した。

### 設問1

#### 【出題の意図】

設問1では、健康意識に関するデータを正確に読み取り、現状の課題を的確に抽出する能力を評価した。データの理解力は、問題解決における基礎的なスキルであり、設問1では数値を適切に解釈し、運動習慣に関する傾向を論理的に整理できるかを問うものであった。

#### 【解答の傾向】

設問1では、図表の数値を正確に読み取ることが求められたが、多くの受験生は30～40代の運動習慣の低下や男女間の運動習慣の違いを適切に指摘していた。一方で、一部の解答では、サンプル数の少ない10代のデータをもとに課題を抽出するなど、全体の傾向を考慮しない分析が見られた。また、60代以上の運動習慣の高さを評価するのみで、健康課題としての分析が不足している解答も散見された。

### 設問2

#### 【出題の意図】

設問2では、様々な図表から読み取れる健康課題をもとに、具体的かつ実施可能な改善策を考える力を評価した。本学の特徴として、地域社会と連携した教育活動を重視しており、単に一般的な解決策を述べるのではなく、受験生自身が主体的にどのような取り組みができるかを考察することを求めた。また、ウェルビーイングの視点を踏まえ、健康を身体的・精神的・社会的に統合的に捉えることができるかも重要な評価基準となる。

#### 【解答の傾向】

設問2では、データから課題を導き出す能力と、それに対する改善策を提示する能力の双方が求められた。しかし、多くの解答は「スマートフォンの使用時間を減らす」「自治体が商品券を配る」など、一般的な施策に留まり、ウェルビーイングの視点を踏まえた改善策は少なかった。本学は地域に貢献する大学を目指しており、受験生にも地域での役割を考えることを求めた。しかし、その視点を反映した解答はほとんど見られなかった。

全体として、基本的なデータの読み取り能力は備えているものの、分析の深さや課題解決の視点において、より主体的・創造的なアプローチが求められる結果となった。